



新城市設楽原歴史資料館

新城市には戦国時代、織田・徳川連合軍と武田軍が戦った「長篠・設楽原の戦い」が行われた場所があります。新城市設楽原資料館では、この戦いの様子と共に火縄銃を始めとした古式銃の歴史について紹介しています。

あわせて、幕末の外交官「岩瀬忠震^{いわせただなり}」についても紹介しています。彼は新城市を治めていた旗本・設楽家の出身であり、日本開国の礎となった日米修好通商条約調印の立役者で、彼なしに現代の日本を語ることはできません。なお、彼は外交官という一面に加えて文化的素養を持ち合わせており、彼が遺した書画や和歌なども展示してあります。

新城市設楽原歴史資料館では戦国と幕末の2つの動乱の時代に生きた偉人たちのストーリーに思いをはせることができます。

目 次

●令和4年度 第46回東海三県博物館協会研究交流会のご報告	2
●令和4年度 研修会のご報告	
職員等研修会「博物館のリニューアルについて」	3
部門別研修会「漆芸文化財の養生・クリーニング体験ワークショップ」	4
●表紙館のご紹介	5

令和4年度 第46回東海三県博物館協会研究交流会のご報告

第46回東海三県博物館協会研究交流会が12月7日、セラミックパークMINOにおいて開催された。

「博物館資源のデジタルデータベース化の現状と今後」をテーマに講演と3館の事例報告が行われ、3県から合計 55名（うち愛知県 25名）が参加した。

〈開催日時〉 令和4年12月7日（水）13時00分～16時20分

〈会場〉 セラミックパークMINO イベントホール ※オンライン配信はなし

〈内 容〉

○講演 13:10～14:10

「コレクション管理の考え方と方法」 金山喜昭氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）

○事例報告 14:15～15:45

報告1「博物館における地域資源データベースの展開」 可児光生氏（美濃加茂市民ミュージアム館長）

報告2「コレクションのデータを公開するとどんないいことがあるのか—愛知県美術館の事例から」

副田一穂氏（愛知県美術館 主任学芸員）

報告3「三重県総合博物館（Miemu）でのデータベース運用と課題」 守屋和幸氏（三重県総合博物館館長）

○発表者によるディスカッション 15:50～16:20

〈概 要〉

令和4年4月に改正された博物館法では、資料を「守り、受け継ぎ」「わかち合う」ことが博物館の方向性として示され、また「博物館資料のデジタルアーカイブ化」が事業として新たに明示された。デジタル技術を生かし、どのようにデータベース化し活用するか、方向性や手立てを考えるというテーマ設定であった。

講演では、日本の博物館における資料管理の現状課題を挙げ、コレクションの重要性を伝えるとともに、管理方針を明確にすることの必要性が示された。続く事例報告では、各館の資料管理状況、データベース公開や活用の取組が紹介され、その利点と課題が示された。ディスカッションでは、会場からの質問に発表者が答える形で、データベース公開に伴う課題の具体的な疑問や、管理事例について議論が行われた。



研修会会場の様子



副田一穂氏（愛知県美術館 主任学芸員）による事例発表

（小川 咲良、愛知県陶磁美術館 学芸員）

令和4年度 研修会のご報告 職員等研修会「博物館のリニューアルについて」

令和4年11月29日（火）に名古屋市博物館にて職員等研修会「博物館のリニューアルについて」が開催された。今回の研修は、対面参加とオンライン（Zoomウェビナー）参加のハイブリッド形式とし、会場参加者は35名、オンライン配信は30台の端末より視聴があった。

今回の研修では、すでにリニューアルを行った設楽原歴史資料館の湯浅大司館長、藤田美術館の前野絵里主任学芸員と、これからリニューアルを行う名古屋市博物館の瀬川貴文学芸課長に事例報告を行っていただいた。

湯浅館長は、設楽原歴史資料館の改修工事の段取りや、工事期間中のスタッフの勤務、来場者の反応などを紹介され、地域の公立歴史資料館としていかにリニューアルを行ったかをご報告いただいた。愛知県博物館協会の中には、設楽原歴史資料館と同様、長年にわたって地域の中で活動してきた館が少なくない。当発表は今後のリニューアルに向けて大いに参考になったものと思われる。続く藤田美術館の前野主任学芸員は、建物躯体の改装に加え、エントランス部分である「土間」での来館者サービスや、キャッシュレス化の促進などソフト面でのリニューアルについても報告された。個人邸宅の蔵を起源に持つ美術館という特徴を生かしながら、時代の変化にも柔軟に応じるリニューアルだと感じられた。名古屋市博物館の瀬川学芸課長は、名古屋市博物館が目指す活動の基本方針を述べられ、それにむけていかにリニューアルを行う予定か発表された。収蔵庫の容量不足や建物の老朽化、ニーズの変化といったどの館も抱える課題に対し、当局とも交渉を重ね理想に近づけるべく尽力されている様子が伝わり、勇気づけられた館も多いに違いない。さらに名古屋市博物館では、対面参加者に向けたバックヤードの見学ツアーも実施され、収蔵庫など館内各所を巡りながら、どの箇所をいかに改修してゆくのかより具体的な説明が行われた。

博物館のリニューアルは、老朽化した建物の物理的修繕のみならず、どのような施設として今後、地域の文化や歴史に寄与し社会とかかわっていくのか、その根本を問い直す機会ともなる。参加者からも多くの質問があがり、リニューアルのノウハウや理念を考え共有する貴重な機会となった。



設楽原歴史資料館、湯浅大司館長



藤田美術館、前野絵里主任学芸員と会場の様子



名古屋市博物館、瀬川貴文学芸課長

（中村 史子、愛知県美術館 学芸員）

部門別研修会 「漆芸文化財の養生・クリーニング体験ワークショップ」

令和5年3月7日(火)に穂の国とよはし芸術劇場プラット研修室(大)にて部門別研修会「漆芸文化財の養生・クリーニング体験ワークショップ」が開催された。本研修は、対面参加を基本としながら、オンライン(YouTubeLive)での配信も行い、対面参加者は24名、オンライン配信参加者は13名であった。

本研修会には東京藝術大学文化財保存修復工芸研究室の非常勤講師で、国宝をはじめとする漆芸文化財の修復に携わる松本達弥氏を講師にお招きした。松本氏には昨年度「学芸員に知っておいてほしい漆のこと、基本のキ」と題して、漆の基礎をご講演いただいております、今年度は昨年できなかったワークショップ形式にて、傷んだ漆器への養生やクリーニングを実際に体験した。

研修会の前半では、松本氏より「津波により被災した執行品の脱塩処理と修復方法の検討」と題して、東日本大震災の大津波により海水を浴びた、陸前高田市立博物館に収蔵されていた漆器を、脱塩処理をして修復した事例の紹介があった。欠けた部分から海水が入りこみ、塩分が吸収されてしまった漆器に対し、石膏などを用いて海水の入り口となった欠けた部分以外の漆を保護したうえで、水につけて塩分を抜く作業をしたということである。ただ水に浸しておくだけでなく、水を循環させることでより効率的に脱塩処理ができるということが示された。

事例紹介の後に、傷んだ漆器への養生・クリーニングをする方法のデモンストレーションが行われた。養生は、小さく切った雁皮紙を水にフェキ糊を溶いたもので、漆が剥落しそうな部分に張り付けていく作業である。雁皮紙は柔らかい和紙であるが、普通の和紙のように繊維方向に裂けることがなく、養生に適しているということである。なお、養生は、クリーニング作業をする際にさらに剥落が進みそうなところや、傷んだ漆器を保管しておく時に剥落を防ぎたいときに応急的に施す作業で、欠けている部分があってもさらに剥落しそうな状態でなければ過度にやる必要はないとの説明があった。

クリーニングの作業は、漆器のベタベタする汚れに対して、綿棒に水を少し含ませたもので、一方向に汚れを集めるようにしてふき取りを行った。ふき取りの力加減や汚れの落ち方は、漆器や汚れ方により異なる。そのため、まずは小さい範囲から試してみて、汚れの取れ方を確認してから、範囲を広げてクリーニングをすると良いという説明があった。基本的には水で汚れを落とすが、どうしても落ちない汚れについては、水に少量の無水エタノールを含ませて試すという方法も示された。

最後に、参加者は各自、養生やクリーニングの作業を体験した。講師の松本氏が各参加者を回って、実際に手を動かしながら浮かんだ疑問や、うまくいかない点を質問し、解説を受けた。特に、雁皮紙は細かく柔らかいため、その扱いに苦戦する参加者が多く見られた。クリーニングを体験した参加者のなかには、丁寧に綿棒で汚れを取り除き、漆の艶を出すことができた参加者も見られた。

自分でやってみなければわからない難しさや、自分でも可能なクリーニングの方法などを実践的に学ぶことができる貴重な場となった。



松本達弥氏による事例紹介



ワークショップの様子

(山下 葵、岡崎市美術博物館 学芸員)

表紙館のご紹介

■新城市設楽原歴史資料館

【開館時間】

9:00～17:00（最終受付 16:30）

【休館日】

毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌平日が休館）

年末年始(12/29～1/3)

【入館料】

一般 330 円 小中 100 円

※障がい者手帳または療育手帳などの交付を受けた方及びその介護者は無料

【所在地】

〒441-1305 新城市竹広字信玄原 552

TEL 0536-22-0673

<https://www.city.shinshiro.lg.jp/mokuteki/shisetu/shiryokan/shitaragahara/yokoso.html>

【交通手段】

公共交通機関で・・・

- ・ JR 飯田線「三河東郷駅」下車、徒歩 20 分
- ・ S バス北部線「歴史資料館」下車

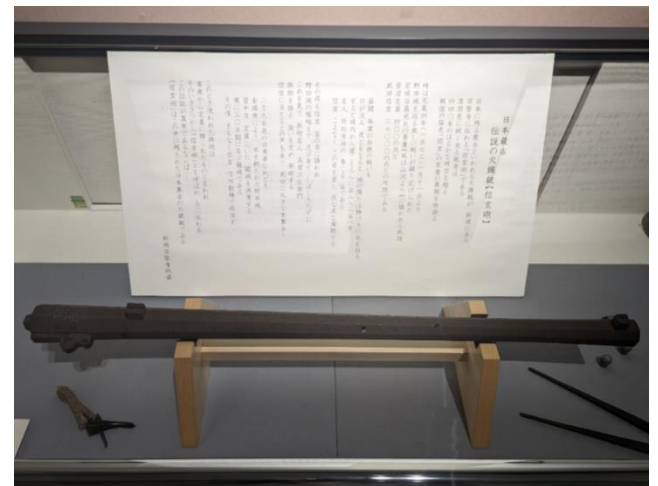
※土・日・祝日、振替休日及び年末年始(12/29～1/3)は運休日

車で・・・

- ・ 新東名高速道路新城 IC から 5 分程度
- ・ 駐車場（50 台）をご利用ください（無料）



設楽原歴史資料館 外観



展示資料 日本最古級の火縄銃 信玄砲

「愛知の博物館」 No.116

発行日 令和 5 年 3 月 31 日

編集・発行 愛知県博物館協会
〒489-0965

愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

愛知県陶磁美術館 内

TEL 0561-84-7474